6月14日のレッスン

ハンナの祈りが聞き入れられる

鍵となる聖句：「やがて、ハンナが身ごもって、その時期が来ると、彼女は男の子を産み、その名をサムエルと名付けた。そして言った。『私は主から彼を願ったからです。』」
サムエル記上 1:20

関連聖句：
サムエル記上 1:1-28; 2:1-11

イスラエルに王が立つ以前、エルカナという男がいた。彼にはペニナとハンナという二人の妻がいた。ペニナには子供があったが、ハンナにはいなかった。毎年、エルカナは家族を連れてシロへ行き、主に礼拝し、いけにえをささげ、そのいけにえの一部を家族一人ひとりに与えた。エルカナはハンナを深く愛していたので、彼女には二倍の分を与えた。

しかし、ペニナはハンナに子供がいなかったことを嘲り、この残酷な仕打ちは年々続き、ハンナは泣き、食事も口にしなくなった。　ついにある年、ハンナは神にひそかに祈り、こう誓った。「全能の主よ。もしあなたが、このしもべの苦しみを見て、私を覚えてくださり、このしもべを忘れずに息子を授けてくださるなら、私はその子を、その

生涯のすべての日、主にささげます。また、その頭には決して剃刀を当てさせません。」（サムエル記上 1:1-11）

神はハンナの祈りを聞き入れられた。翌年、彼女は男の子を授かり、サムエルと名付けた。（サムエル記上 1:19,20）。神に立てた、息子の頭に剃刀を当てないという誓いは、ナジル人の誓いであった。これは「特別な誓い、主への聖別を誓うもの」であった。　この誓いの一環として、髪を切らないことに加え、ぶどう酒を飲んではならず、ぶどうの木から採れたものも食べてはならないと定められていた。この誓いを立てた者は、近親者を含め、いかなる死体にも触れてはならないとされた。（民数記6:1-21）。人がナザレ人の誓いの下に身を置く間、その人は「主の聖なる者」であった。（民数記6:8）

ハンナという名は、「恵み」または「恩寵」を意味します。主の信徒たちにはこう告げられています。「あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たものではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることがないようにするためです。」　（エペソ人への手紙 2:8,9）。ハンナは祈りの人生を送りました。彼女は悩みがある時にも祈りました。また、感謝の気持ちがある時、例えば、自分の子サムエルを大祭司エリに捧げた時にも祈りました。サムエル記上 2:1-11

パウロの勧告はこうです。「何事も心配しないで、あらゆる事について、祈りと願いと感謝をもって、あなたがたの願い事を神に申し上げなさい。

そうすれば、人の知力をはるかに超えた神の平安が、キリスト・イエスにあって、あなたがたの心と思いを守ってくださいます。」　（ピリピ人への手紙　4:6,7）。私たちは、希望と信頼を完全に神に置き、喜びの心を持って、神の約束に即して願い求め、絶えず祈るべきです。そうすれば、神の平安を得て、神の摂理がどのようなものであれ、「あらゆる　な状況において」感謝することができるようになるでしょう。テサロニケ人への第一の手紙 5:16-18

ハンナは神に大きな犠牲を捧げました。彼女は息子サムエルを、生涯を通じて主に完全に献身するというナジル人の誓いを守る者として神に捧げたのです。　今日、神に奉献されたキリストの弟子たちもまた、この悪しき世の「死んだもの」から離れることを含め、神への完全な献身を誓う生涯の誓いを立てています。彼らはその代わりに「キリストを身に着け」、聖霊の実と恵みを育んでいます。ガラテヤ人への手紙　3:27；エペソ人への手紙 4:24；コロサイ人への手紙 3:10-17